



小出特別支援学校中学部

同世代との『交流及び共同学習』の成果と課題

新潟県立小出特別支援学校 角屋 香里 上村 剛司 小林 美穂



① 居住地校交流

H19～21の取組

＊「交流部」でスタート

居住地校への発信
「はじめのいっぽ」

- 生徒の存在をアピール
- 発信、受け取りは教師
- 直接交流なし

H22の取組

＊「交流及び共同学習部」に変更

学校の教育活動として
居住地校交流を開始

- 担任による居住地校交流の制度の周知、計画立案
- ・担任の引率なし

▲中学部参加希望者：なし

- ・前例がない
- ・よく分からない
- ・親が一人で連れて行くのは不安
- ・中学校の勉強は難しい

保護者

H23以降の取組と活動の様子

○手続きのマニュアル化

- ・管理職、担当分掌・担任の役割の明確化
- ・丁寧な説明時間の確保
- ・担任の引率
- ・保護者の送迎・付き添い
- ・交流回数の限定

◎中学部参加希望者：毎年3割程度

- ・経験した保護者から様子を聞ける
- ・紙面及び口頭での説明で分かりやすい
- ・先生の引率で安心
- ・子どもの得意な活動や学習内容を取り上げる。

保護者



中2生～音楽～



中2生～書道～



中3生～体育～

< 成果 >

- ・交流先生徒：当校生徒の成長に気付く
- ・当校生徒：同世代の大集団の活動を経験
- ・保護者：地域の生徒とのつながりを保てる安心感

< 課題 >

- ・保護者の送迎
- ・担任の負担
→希望者数分だけ打ち合わせ・授業準備
→学級・学部運営の調整
- ・交流に向けた個々の学習時間の確保

② 近隣中学校交流

H26～の取組



	1 学年	2 学年	3 学年
平成26年度	<音楽> ・合唱 ・給食		
平成27年度	<体育> ・ダンス ・給食	<音楽> ・合唱 ・給食	
平成28年度	<美術> ・ステンシル	<美術> ・水墨画 ・給食	<美術> ・和紙制作 ・給食
平成29年度	準ずる課程 <理科> ・大気圧 <数学> ・比例・反比例	<美術> ・パステルの技法	<美術> ・てん刻 ・給食

近隣中学校交流の手続き

- ・学部の交流及び共同学習担当 ↔ 相手校コーディネーター
連絡・調整

活動の様子



中2生～美術～



中3生～体育～



中2生～給食～



中3生～音楽～



中2生～美術～

< 成果 >

- ・当校生徒：
 - 通常学校生徒の活動が手本となるため、求められていることをイメージしやすいため、主体的に学習に取り組むことができる
- ・通常学校生徒：
 - 当校生徒の困難さを感じることができる（障害理解の一步）
 - 提供されている配慮を知ることができる（直接交流・出前授業）

< 課題 >

- ・実態が学年によって大きく異なるため、年度当初から交流及び共同学習を教育計画に組み入れることが困難
- ・特定の教科に偏りがち。教科担当の負担：大